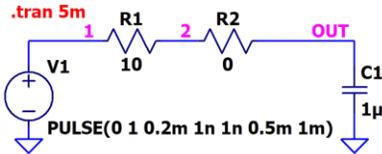


R=0 を設定すると・・・

回路図中の抵抗値を「0」にすることは可能である。シミュレーションの実行でもエラーにはならない。なぜなら、抵抗器（図的に表示されている記号）の両端を0Ωでつなぐことは、これらのノードが同一であることを意味しているため、一方のノード名は存在しない。



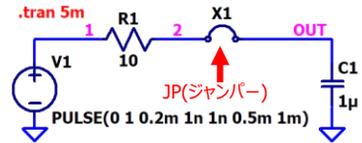
R2=0 を設定した場合・・・

```
V1 1 0 PULSE(0 1 0.2m 1n 1n 0.5m 1m)
R1 1 2 10
C1 2 0 1μ
.tran 5m
.backanno
.end
```

ネットリストを見ると、R2に0Ωを設定すると「R2」そのものが存在しなくなる。同時に、「OUT」ノードは無く、ノード「2」だけになる。

R2に10Ωを設定すると「OUT」ノードが表示される

```
V1 1 0 PULSE(0 1 0.2m 1n 1n 0.5m 1m)
R1 1 2 10
R2 2 OUT 10
C1 OUT 0 1μ
.tran 5m
.backanno
.end
```

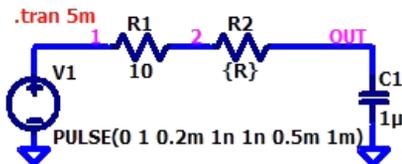


```
V1 1 0 PULSE(0 1 0.2m 1n 1n 0.5m 1m)
R1 1 2 10
C1 2 0 1μ
.tran 5m
.backanno
.end
```

0Ωの抵抗器の代わりに「JP」エレメントを使ってもショートした回路として扱われる。

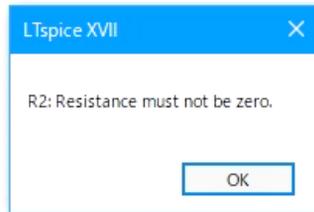
.STEP の値に0Ωは使えない

しかし、.STEPの中にも0Ωを含めることはできない。たとえわずかな値でも「0」ではない値を設定しなければならない。

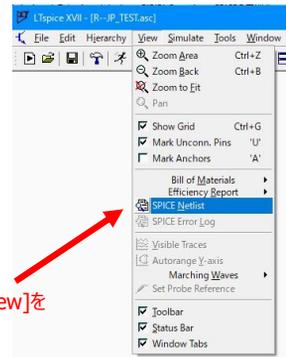


```
V1 1 0 PULSE(0 1 0.2m 1n 1n 0.5m 1m)
R1 1 2 10
R2 2 OUT {R}
C1 OUT 0 1μ
.tran 5m
.step param R 0 20 10
.backanno
.end
```

.step param R 0 20 10



.STEPの値に0を含めると、ネットリストには2つのノードがあるのに、いざシミュレーションを実行すると、連立方程式のつじつまが合わなくなるのでエラーになる。



<参考> ネットリストの表示方法
回路図中で右クリックか、メニュー・バーの中から[View]を選択し、その中の[SPICE Netlist]をクリックする。